

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分	No.	コメント			回答	備考
		開催回	日付	内容		
敷地 地質・地質構造	全般	1	第368回	2016.6.10	敷地内に分布する構造の全体像を説明した上で、評価対象を選定する過程について説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	2	第368回	2016.6.10	当初設置許可時より重要な安全機能を有する施設が増えているので、断層と重要な安全機能を有する施設の位置関係について説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	3	第368回	2016.6.10	断層と重要な安全機能を有する施設との位置関係において、取水路トンネル付近の地質・地質構造については、その状況がわかるデータを提示し、説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	4	第368回	2016.6.10	敷地内断層は複雑な位置関係にあるので、建屋直下だけでなく他の断面図も示すこと。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	5	第368回	2016.6.10	敷地内断層の深部確認ボーリングを説明した断面図の情報を増やすこと。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	S-1	6	第368回	2016.6.10	S-1がS-2・S-6を越えて重要な安全機能を有する施設下に続いていかないことをしっかり説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	7	第368回	2016.6.10	断層の端部のデータや切り切られの関係がわかるデータを示した上で、評価対象断層の選定の考え方を説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	8	第368回	2016.6.10	設置変更許可申請書における解析用要素分割図(9-9'断面)と地質鉛直断面図(9-9''断面)で、断層分布が異なることについて説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	9	第368回	2016.6.10	S-2・S-6とS-1が共役関係にあるかどうかについて説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	S-4	10	第368回	2016.6.10	S-4について、平面図に図示している他のトレンチについても、端部データとしても重要なのでデータを提示すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	年代評価	11	第368回	2016.6.10	中位段丘堆積物や赤色土壌等の年代評価の根拠となるバックデータを示すこと。火山灰データは、採取位置、採取量等も示すこと。	2017.12.8審査会合
敷地 地質・地質構造	年代評価	12	第368回	2016.6.10	遊離酸化鉄分析結果で用いている永塚(1975)のデータが志賀サイトで適用できるか確認すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	年代評価	13	第368回	2016.6.10	中位段丘I面について、敷地内の中位段丘I面が5cの可能性がないか検討すること。	2017.12.8審査会合
敷地 地質・地質構造	S-2・S-6	14	第368回	2016.6.10	S-2・S-6の北方に認められる西側が高い地形(凸状地形)の部分だけではなく、S-2・S-6に沿った全体の地形について説明すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	S-2・S-6	15	第368回	2016.6.10	S-2・S-6の北方に認められる西側が高い地形(凸状地形)は岩盤上面の起伏を反映した組織地形であるとの評価について、平面図だけでなく断面図も提示して説明すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	S-4	16	第368回	2016.6.10	S-4の走向データについて、トレンチ壁面と全体平面図の走向が違っているように見えることについて説明すること。	2018.7.6審査会合

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分	No.	コメント			回答	備考
		開催回	日付	内容		
敷地 地質・地質構造	S-4	17	第368回	2016.6.10	S-4トレンチ南西壁のスケッチについて、説明文にある凝灰質な細粒部の分布について説明すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	K-Ar年代	18	第368回	2016.6.10	K-Ar年代分析については、シーム及び周辺の安山岩での試料採取箇所、測定物、カリウムの含有量、非放射性アルゴンの含有量等を整理して提示し、年代値が示す意味を考察すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物組成	19	第368回	2016.6.10	断層の鉱物組成について、分析結果のバックデータを示すこと。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈	20	第368回	2016.6.10	今後の課題への対応の中で、鉱物脈の確認が6月末となっているが、判断のもとになるようなものを見つかるようトライし、見つかったところで報告してほしい。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈	21	第478回	2017.6.23	高温で形成された鉱物脈は確認されていないものの、低温で形成された粘土鉱物(スメクタイト)が粘土脈中に存在することから、このような脈についても検討を行うこと。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	K-Ar年代	22	第453回	2017.3.10	安山岩のK-Ar年代について、年代測定の精度が低い可能性があることからデータの吟味を行うこと。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	23	第478回	2017.6.23	敷地周辺は地震性隆起があり、古い段丘面も分布する特徴的な地形であることから、敷地周辺の地質構造について説明すること。	2017.12.8審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	24	第453回	2017.3.10	断層の切り合い関係の評価について、切られた相方がない場合及び実際の露頭や詳細なスケッチがない場合は、確実度が落ちる。評価対象断層の選定を行うのであれば、別の観点からの選定をしっかりと説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	25	第478回	2017.6.23	評価対象断層の選定にあたり、断層の性状、規模、運動方向から選定する考え方について、客観的なデータで説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	26	第453回	2017.3.10	切られた相方がない地点の交差部での詳細な観察データを示すこと。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	27	第453回	2017.3.10	断層評価を行うにあたっては、第3条対象が第4条対象かを明確にすること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	28	第453回	2017.3.10	断層の端部を止めていない断層については、端部の状況を説明すること。S-4の北東端についても同様。	2018.3.2審査会合(S-4以外) 2018.7.6審査会合(S-4) 2019.10.25審査会合(S-4)
敷地 地質・地質構造	防潮堤基礎部	29	第453回	2017.3.10	防潮堤基礎部のスケッチにおいて、基盤岩が傾斜してみえる箇所(3箇所)について写真データ等を追加して説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	取水路トンネル	30	第453回	2017.3.10	取水路トンネルの破砕部について、海岸部の断層との関係や破砕部の状況について説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	31	第453回	2017.3.10	「凝灰質な細粒部」としていた箇所と「破砕部」との関係性を説明すること。	2018.3.2審査会合

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分	No.	コメント			回答	備考	
		開催回	日付	内容			
周辺 地質・地質構造	段丘面	32	第531回	2017.12.8	能登半島では中位段丘 I 面以外の段丘面が認定されているため、それらのデータを用いて、段丘面の高度分布を説明すること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.1
周辺 地質・地質構造	段丘面	33	第531回	2017.12.8	中位段丘面について、堆積物の状況を踏まえた上で、海成段丘面であることを説明すること。	2018.7.6審査会合	
周辺 地質・地質構造	段丘面	34	第531回	2017.12.8	I 測線柱状図等について、今回の調査と過去の調査で評価の信頼性が異なる場合は、その旨を明記すること。	2018.7.6審査会合	
周辺 地質・地質構造	海水準	35	第531回	2017.12.8	海水準変動について、日本海側の研究事例を説明すること。また、気候変動の調査結果から考察できることがないか検討すること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.2
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	36	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層の隆起側である福浦港から富来港の間に中位段丘 I 面が分布しないことについて、地形面の成因に関する調査結果をより詳細に説明すること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.3
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	37	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層に対応する二つの平行したリニアメント・変動地形について、トレンチ調査結果等を詳しく説明すること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.4
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	38	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層について、重力異常図や既往研究における高位段丘面の分布標高のギャップが見られるため、詳細な検討結果を示すこと。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.5
周辺 地質・地質構造	水準測量	39	第531回	2017.12.8	水準点標高の経時変化等も用いて、近年の地殻変動の状況を加えるなど説明性を向上させること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.6
周辺 地質・地質構造	物理探査	40	第531回	2017.12.8	重力異常図や空中磁気図といった地球物理学的な調査結果と、断層や地質構造との関係について説明すること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.7
周辺 地質・地質構造	海域	41	第531回	2017.12.8	隆起が認められる地点において、海底地形や海底地質、表層の堆積物がどう分布、形状になっているのか説明すること。また、それと比較して、隆起に関係しない地点ではどのような違いが認められるのか説明すること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.8
周辺 地質・地質構造	海域	42	第531回	2017.12.8	B1層及びB2層の年代について、平均堆積速度を用いた層厚推定の妥当性を説明すること。	2021.5.14審査会合	敷地周辺の地質・地質構造に関するコメントNo.9
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	43	第553回	2018.3.2	陸域の評価対象断層の選定フローにおいて、「動きやすさの検討」の根拠としている複数の観点のうち、主たる根拠は何であるかを明確に整理すること。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	44	第553回	2018.3.2	重要な安全機能を有する施設の直下に分布する断層のうち、 ・S-7、S-8については、評価対象断層に選定しない根拠の妥当性を整理して説明すること。 ・S-5については、断層規模の観点に加え、断層間の関係性、分布規制の観点も加味し、整理して説明すること。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	45	第553回	2018.3.2	断層の変位量、運動方向について個別断層同士の解釈だけでなく、断層全体の解釈について整理を行うこと。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (鉱物組成)	46	第553回	2018.3.2	過去の審査会合で示したXRD分析結果を含めて、説明すること。なお、測定時期の異なるXRD分析については、凡例を変えるか、別表にする等その違いをわかるようにして、整理すること。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (鉱物組成)	47	第553回	2018.3.2	輝石のような固溶体では、ピーク自体が大きくないことや斜長石のピークの間にあることから、XRD分析では斜方輝石や単斜輝石と判断せずに、輝石類と判断すること。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物組成	48	第553回	2018.3.2	斜長石のアルバイト化の検討が行われている場合は、その結果を示すこと。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (鉱物組成)	49	第553回	2018.3.2	S-2・S-6の固結した破砕部の薄片観察において、赤色の鉱物は斜方輝石であるかどうか確認しておくこと。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(方針)	50	第597回	2018.7.6	活動性評価においては、既往資料である有識者会合報告書の評価について説明した上で、それと異なる見解を採用した場合には、その根拠を明示すること。また、調査地点の代表性の観点から整理すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(方針)	51	第597回	2018.7.6	活動性評価の方針について、申請時から今回までの経緯と変更内容について整理すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	52	第597回	2018.7.6	海成段丘堆積物の認定について、えん堤左岸のデータも含め、最終的な海成段丘面の判断基準について整理すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	53	第597回	2018.7.6	海成段丘堆積物の特徴として示すインプリケーションについて、能登半島の海岸などでの実例を示すこと。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	54	第597回	2018.7.6	鉱物脈のうち、最新面を明瞭に横断しているとした碎屑岩脈については、その形成された年代を明確に示すこと。 また、碎屑岩脈が低温下で形成されたものではないとする根拠についても示すこと。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	55	第597回	2018.7.6	鉱物脈のうち、粘土鉱物脈の評価については、まず、最新面を明瞭に横断していることを示すこと。その上で、粘土鉱物脈が形成された年代を明確に示すこと。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-1)	56	第597回	2018.7.6	S-1北西部の旧A・Bトレンチに近い個所で、信頼性の高いデータを取得すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	57	第597回	2018.7.6	No.2トレンチのS-2・S-6の走向がS-2・S-6の一般走向とずれているが、No.2トレンチの断層をS-2・S-6と評価した根拠について説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	58	第597回	2018.7.6	No.2トレンチの礫等の長軸の角度分布について、有識者会合の評価と異なっている点について説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	59	第597回	2018.7.6	No.2トレンチの東傾斜の層理について、局所的な堆積構造と結論付けられているが、その根拠について説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	60	第597回	2018.7.6	S-2・S-6周辺の岩盤上面の形状について、海側が隆起している傾向がないか、コンター図を作成するなどして説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-4)	61	第597回	2018.7.6	S-4北東部の延伸について、従来から評価を変えた点について、整理して明確に示すこと。	2019.10.25審査会合

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分	No.	コメント			回答	備考	
		開催回	日付	内容			
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-4)	62	第597回	2018.7.6	従来のS-4と35m盤トレンチの間の連続性を示すデータを整理して、35m盤トレンチでS-4とした断層が、従来のS-4から北東方に延長するものであることを説明すること。	2019.10.25審査会合	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (K-2, K-3)	63	第597回	2018.7.6	K-2, K-3の活動性について、後期更新世以降の活動を明確に否定する証拠を示すこと。	2020.7.10審査会合	
敷地 地質・地質構造	断層の性状	64	第597回	2018.7.6	K-2, K-3について、全線が固結した破碎部というが、取水路トンネルでは粘土を含む破碎部があったり、ボーリングデータで割れている状況もある。深部方向のデータを充実すること。	2020.3.13審査会合	区分を「活動性評価(K-2, K-3)」から「断層の性状」に変更
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (K-2, K-3)	65	第597回	2018.7.6	K-2について、岩石が延性的に変形したとしており、これは高温環境と考えられるが、一方でアルバイト化はしておらず、高温環境ではないと評価している。変形の形態についても詳細な観察を行い、温度環境に矛盾がないように説明をすること。	2020.7.10審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (基礎データ)	66	第597回	2018.7.6	評価の基礎データである、ボーリングコア柱状図、コア写真、BHTV画像を提出すること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	67	第627回	2018.9.21	評価対象断層の選定にあたって、選定の方針、考え方、前回からの変更内容が資料中に明示されていないため、その適切性が確認できない。これらについて、資料中に明確に記載すること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	68	第627回	2018.9.21	評価対象断層の選定で、まず断層の分布形態を3つに分類しているが、その考え方が資料に記載されていないので、資料中に明確に記載すること。特に、検討②と③の違いについて明確にすること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	69	第627回	2018.9.21	断層の分布形態から3分類して行っている検討のうち、検討③については、断層分布の規制と粘土状破碎部の分布からS-7及びS-8を選定しないと評価しているが、根拠としては十分ではない。S-7及びS-8を選定しない評価を続けるのであれば、科学的で客観的な根拠を示すこと。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	70	第627回	2018.9.21	断層の分布形態から3分類して行っている検討のうち、検討①と②については、分類して検討するのではなく、それぞれの断層の深さ方向の分布や運動方向等のデータも整理して個別に説明すること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	71	第627回	2018.9.21	評価対象断層の選定の結果を検証するために、破碎部の幅や粘土状破碎部の破碎性状の観点から、選定した断層がより活動的と評価しているが、これらの指標はより活動的な断層であるかを評価するための根拠としては十分ではない。これらの指標を検証として用いるのであれば、明確な根拠を示すこと。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (基礎データ)	72	第627回	2018.9.21	海岸部の断層の新旧関係の解釈に関して、根拠として示している会合部のデータについて、より客観的な観察結果を示すこと。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (基礎データ)	73	第627回	2018.9.21	資料の充実、適正化の観点から、 ・反射法・VSP探査結果について、解析精度に関する情報及びマイグレーション処理前後の図面を示すこと。 ・データ集のXRD分析結果について、試料採取位置の深度を記載すること。	2019.1.18審査会合	

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考		
			開催回	日付			内容	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	74	第627回	2018.9.21	ヒアリング時資料から本日の審査会合資料までに多くの誤記の修正を行っている。本日の審査会合資料についても修正しきれていない箇所がある。審査会合で適切な議論ができるよう、誤記等のない適切な資料を作成すること。	2019.1.18審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	75	第671回	2019.1.18	選定フローのステップ2において、走向で系統分けしているが、各断層の傾斜方向や運動方向、破碎部の性状を踏まえ、走向のみで系統分けができるとした根拠・プロセスを示すこと。	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	76	第671回	2019.1.18	海岸部の断層評価について、取水路トンネルの既存の調査データや追加ボーリングデータなどにより、以下の点について、整理すること。 ・重要施設である取水路トンネルの設置面における断層の分布と評価対象とする断層の選定根拠 ・追加ボーリングで確認されている破碎部の連続性	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	77	第671回	2019.1.18	K-2とK-1, K-4, K-5の新旧関係の評価を行うのであれば、会合部におけるひきずりや変位量、切り合い関係の整合性の点から、新旧関係を明確に判断できる根拠を示すこと。	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	78	第671回	2019.1.18	K-5の延長方にある防潮堤基礎部の24ブロックの割れ目について、追加掘削により深部に連続しないと評価しているが、より鮮明なデータを示して説明性の向上を図ること。また、防潮堤設置時の法面写真について、写真の継ぎ目により断層の有無が判断できないため、断層の有無が判断できる資料を示すこと。	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	79	第671回	2019.1.18	資料構成について、過去の審査資料を含め議論に必要な資料を提示するとともに、資料の重要度や使用目的に応じて、補足説明資料や参考資料に階層化するなどの見直しを行うこと。	2019.10.25審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(海成段丘堆積物)	80	第788回	2019.10.25	海成堆積物の認定根拠については、定量的に示す等、説明性の向上を図ること。えん堤左岸トレンチについては、石英粒子を含むことを根拠として用いるならば、根拠の妥当性について説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鈳物脈)	81	第788回	2019.10.25	XRD分析結果について、試料採取部の状況や試料調整等のプロセスを示し、鈳物脈との関係について考察すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鈳物脈)	82	第788回	2019.10.25	粘土鈳物(I/S混合層)の判定に、EPMA分析で得られた分析値を用いるにあたっては、分析位置、分析値の妥当性についても考察すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鈳物脈)	83	第788回	2019.10.25	粘土鈳物のEPMA分析値の中には、一般的な粘土鈳物に比べてタルやFeの値が大きいものもあることから、分析値が示す意味について考察すること。なお、Feのマッピングが示されていないため、追加で示すこと。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鈳物脈)	84	第788回	2019.10.25	断層ごとに鈳物脈で見られる変質鈳物に違いがあるかを確認するために、変質鈳物の分析結果を断層間で比較し、考察すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鈳物脈)	85	第788回	2019.10.25	鈳物脈法の評価において、最新面を明確に特定できない場合は、最新面の可能性のあるものについて、鈳物脈との関係を説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鈳物脈)	86	第788回	2019.10.25	断層破碎部や粘土鈳物の形成プロセスを模式図等で示すこと。	2020.7.10審査会合	

■ : 回答完了 ■ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
敷地 地質・地質構造	活動性評価(鉬物脈)	87	第788回	2019.10.25	砕屑岩脈については、形成過程も含め、検討状況について説明すること。	2020.7.10審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(鉬物脈)	88	第788回	2019.10.25	顕微鏡観察においては、鉬物の消光状況を確認したことがわかる顕微鏡写真を提示すること。	2020.7.10審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(S-1)	89	第788回	2019.10.25	S-1北西部の活動性評価を確実にを行うため、旧A・Bトレンチよりも海側における明確な物証も加え、評価を行うこと。	2020.7.10審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(S-4)	90	第788回	2019.10.25	35m盤トレンチの堆積物は、他の箇所と比べて厚さが薄いこと等から、周辺の分布状況も示した上で、上載地層としての妥当性について説明すること。	2020.7.10審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(S-4)	91	第788回	2019.10.25	35m盤トレンチで確認されたS-4に斜交する断層の評価については、上載地層との関係やS-4との交差部の状況の拡大写真等を示し、説明すること。	2020.7.10審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(S-5)	92	第788回	2019.10.25	S-5の過去の調査では粘土状破砕部が認められていることから、今回取得した薄片観察結果との整合性について、調査地点の妥当性も含め、説明すること。	2020.7.10審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	93	第849回	2020.3.13	K-2、K-16の分岐部については主部との離隔もあること、また、破砕部Ⅰ、Ⅱ、Ⅳについては取水路に分布するものもあることから、それぞれ個別の断層として扱い、選定手順に基づき評価対象断層とするか否かについて検討すること。	2020.10.2審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	94	第849回	2020.3.13	取水路に分布しないと評価している断層のうち、K-17、K-18、K-20、K-21について、調査位置が取水路位置から離隔していることによる不確かさも考慮し、これらが取水路に分布する断層か否かを判断すること。	2020.10.2審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	95	第849回	2020.3.13	K-4、K-5及びK-2の分岐部(破砕部B)の深部方向における断層配置や切断関係について整理し、説明すること。	2020.10.2審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	96	第849回	2020.3.13	系統区分のⅡ・逆系において、西傾斜と東傾斜で連続性等の分布の特徴が異なることから、傾斜方向も加味して別の系統として区分するか、もしくは、同系統として区分する妥当性について説明すること。	2020.10.2審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	97	第849回	2020.3.13	過去に提示しているボーリング柱状図のうち、S-1の深部方向のボーリングなどこれまでの審査会合においてデータ集として添付していないものについては、データ集として提出すること。	2020.7.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	98	第849回	2020.3.13	過去のシーム調査時からの変更点など柱状図の記載内容の変遷について、記載すること。	2020.7.10審査会合

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	99	第875回	2020.7.10	活動性評価に用いている鉱物脈が敷地に広く分布していることを確認する観点から、敷地内のどこにどのような鉱物が確認されているかを整理して示すこと。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	100	第875回	2020.7.10	敷地内における変質鉱物等の直接的な観察結果に基づき、それらの生成順序について説明すること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	101	第875回	2020.7.10	鉱物脈法に用いている碎屑岩脈の固結の程度について説明すること。また、薄片観察において、I、II等と分帯しているもののうち、どこが粘土状破砕部なのか分かるように資料に記載すること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	102	第875回	2020.7.10	敷地周辺に分布する穴水累層中の変質鉱物について、客観的な観察事実に基づき、敷地と同じような変質の状況が敷地周辺に広範囲で認められること及び鉱物脈の生成時期が古いことを説明すること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	103	第875回	2020.7.10	鉱物脈法による評価においては、空隙等の乱れの影響を受けていない薄片を用いること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (K-3)	104	第875回	2020.7.10	K-3の活動性評価において、後期更新世以降の活動がないと評価した考え方を再整理して説明すること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	105	第875回	2020.7.10	礫の形状を用いた海成堆積物の評価において、礫の採取時や解析の際に用いる礫の大きさを規定した根拠について、資料に記載すること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	106	第875回	2020.7.10	礫の形状による解析を行う際には、侵食されにくい極端に大きな礫の影響も考慮し、同程度の礫の大きさで比較した場合についても考察すること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-4)	107	第875回	2020.7.10	35m盤トレンチと35m盤法面の堆積物の比較において、例えば針貫入試験等の定量的なデータを加えて、堆積物の広がりについての説明性を高めること。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	108	第902回	2020.10.2	断層の系統区分について、走向、傾斜、運動方向による6種類の区分を分かりやすく示すこと。	2021.1.15審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	109	第902回	2020.10.2	XRD分析結果に示す斜長石について、曹長石等に変質していないことを資料に明記すること。	2021.1.15審査会合

■ :回答完了 □ :今回回答 □ :次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
敷地 地質・地質構造	変質鉱物の年代評価	110	第935回	2021.1.15	敷地の変質鉱物と第四系との関係について、安山岩中の割れ目に認められる白色脈とその直上の堆積物の関係をより詳細に説明すること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	変質鉱物の年代評価	111	第935回	2021.1.15	敷地内の変質鉱物が地下深部で生成後に隆起したとする評価に関して、能登半島周辺の地質構造に関する既往知見との関係を整理すること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	変質鉱物の年代評価	112	第935回	2021.1.15	敷地の安山岩の変質時期の説明において、生成環境等の検討を行っているが、敷地周辺に分布するほぼ同時期(新第三紀)の堆積岩の変質状況を確認すること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(薄片観察)	113	第935回	2021.1.15	薄片観察における最新面の認定及び碎屑岩脈の分布形状の評価について、観察範囲の拡大等により、観察結果をより詳細に記載し、説明性を高めること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(薄片観察)	114	第935回	2021.1.15	敷地内断層と、周辺の活断層である福浦断層の破砕部の性状の比較について、福浦断層の露頭観察結果、薄片のサンプリング位置等を示したうえで、福浦断層との違いについてより詳細な説明を加えること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(K-3)	115	第935回	2021.1.15	K-3のM-2.2孔の薄片観察結果について、最新面の認定に関するデータの拡充を行い、根拠の充実を図ること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	変質鉱物の年代評価	116	現地調査	2021.11.18 ,19	穴水累層中に認められる白色脈と第四系の関係について、露頭での再観察等、より詳細なデータを示すこと。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	上載地層法(S-2・S-6)	117	現地調査	2021.11.18 ,19	No.2トレンチでは、断層活動の影響により地層が山側に傾斜している可能性も考えられるため、上載地層の傾斜方向や礫の長軸の傾斜方向の説明にあたっては、S-2・S-6との位置関係も考慮した分析を行うこと。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	上載地層法(S-4)	118	現地調査	2021.11.18 ,19	35m盤トレンチについて、当該地点で上載地層を用いた手法により活動性を評価するのであれば、断層位置が判別できる露頭を改めて示した上で、説明すること。また、岩盤と上載地層との境界部についても、認定根拠を具体的に示すこと。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	上載地層法(S-4)	119	現地調査	2021.11.18 ,19	35m盤法面の施工時の記録等があれば提示すること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	海岸部	120	現地調査	2021.11.18 ,19	K-2とK-5の会合部のスケッチと写真及び現状が異なっているように見えるため、スケッチの作成時期やスケッチへの投影の方法が分かるように示すこと。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(露頭・ボーリングコア)	121	現地調査	2021.11.18 ,19	変質鉱物脈と断層との関係については、薄片観察に加え、露頭やボーリングコアでの目視レベルでも詳細な観察を行い、整理して説明すること。	2022.5.20審査会合
敷地 地質・地質構造	ボーリングコア	122	現地調査	2021.11.18 ,19	ボーリングコアで柱状図に記載していない軟質部や条線が認められる箇所について、連続する断層かどうか確認すること。 ・H-6.5' 孔の深度61.5m ・G'-1.5-30孔の深度36.6m ・H-6.5' 孔の深度76.7m	2022.5.20審査会合

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考	
			開催回	日付			内容
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(薄片観察)	123	現地調査	2021.11.18 .19	断層の最新面が不明瞭になっているものもあり、鉱物脈が明瞭に横断しているようには見えない箇所があるため、鉱物脈が最新面を横断するとの状況について、改めて追加観察を行うこと。 ・S-1(H-6.7孔)の面2 ・S-4(E-8.50'')孔)の面2 ・S-5(R-8.1-1-3孔)の面1 ・S-7(H-5.7'孔)の面2 ・K-3(M-2.2孔)の面1	2022.5.20審査会合	
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(薄片観察)	124	現地調査	2021.11.18 .19	敷地内断層との比較に用いている福浦断層の薄片観察結果については、含まれる変質鉱物の種類の分析結果も含めて、より詳細に説明すること。また、断層中に認められる積層構造について、薄片観察に加え、露頭での観察結果についても詳細に記載すること。	2022.5.20審査会合	
敷地 地質・地質構造	全般	125	第1024回	2022.1.14	活動性評価に用いていないデータも含め、過去のデータについて、最終的な評価との整合性について整理し、総合的な説明を行うこと。	2022.5.20審査会合	
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(薄片観察)	126	第1049回	2022.5.20	明確に鉱物脈が最新面を横断する状況が写真では見てとれない下記の箇所について、既存の薄片の詳細観察あるいは新たに作成した薄片等を用いて、より詳細に説明すること。 ・K-2 H-1.1-87孔 範囲B 最新面1と鉱物脈の関係については範囲Aで評価しているが、範囲Bにおいて、最新面1の延長上の鉱物脈中に色境界があり、鉱物脈が明確に最新面1を横断しているか分かりづらい。 ・K-18 H-0.2-75孔 薄片② 最新面の延長上に割れ目や色境界があり、鉱物脈が明確に最新面を横断しているか分かりづらい。 ・S-2・S-6 E-8.5-2孔 範囲A・範囲B 鉱物脈のスケールが小さく、最新面が凹凸しているだけのように見てとれ、現状では明確に横断しているとはいえない。他の薄片で鉱物脈が最新面を横断する状況を示すデータが得られているが、本薄片も活動性を否定する主たるデータと位置付けるのであれば、同様の状況を改めて示すこと。		
敷地 地質・地質構造	敷地内断層と活断層との破砕部性状の比較	127	第1049回	2022.5.20	薄片観察における下記の点について、改めてデータを示した上で、敷地内断層と福浦断層の違いについてより詳細に説明すること。 ・敷地内断層と同様、福浦断層においてもY面の不連続が認められる点。 ・敷地内断層と同様、福浦断層においても粘土鉱物がY面を横断しているように見える点。		
敷地 地質・地質構造	鉱物脈法(K-3)	128	第1049回	2022.5.20	K-3については、他の敷地内断層と見た目や性状が異なることから、含まれる鉱物等の違いの有無等を明らかにした上で、形成環境等の検討結果も踏まえた評価について説明すること。		